

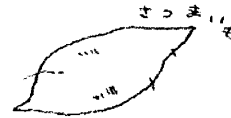
☆給食室から☆

—秋の味覚を楽しもう—

秋はおいしいものがいっぱい！

栗やさつまいも、きのこなど旬の食材がたくさんありますが、苦手な子もおおいです。保育園での工夫や比較的食べやすそうなメニューを紹介します。

- *じゃがいも 茹でてマッシュし、好きな味をつけて少し片栗粉でつなぎます。それを成形して焼くと食べやすそうです。（0歳の子どもたちから食べれますよ）
- *さつまいも 保育園ではなるべくアレルギーフリーのメニューを取り入れているため、卵を使用していません。クッキーを作る際は、卵の代わりにマッシュしたさつまいもを入れています。さつまいもが苦手な子も、気づかずにペロッとたべてくれるためおすすめです。
- *きのこ類 きのこそのままでは食べにくい子も、小さめに刻んでごはんと一緒に炊き、炊きこみごはんにすると比較的食べやすそうです。



☆保育園で人気の絵本☆

—子どもたちに絵本を 絵本は心の栄養になります—

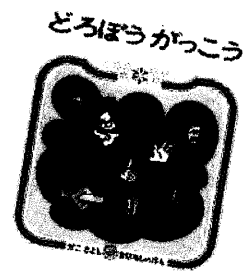
5歳クラスから

たくさん読んであげてくださいー

「どろぼうがっこう」

かこさとしおはなしのほん

山また山の村はずれにあるおかしな「どろぼうがっこう」のお話です。どろぼうがっこうの校長先生は、くまさかとらえもん先生。くまさか先生はあるとき授業の終わりに宿題を出します。「明日までに何かどろぼうをやっこい。」翌日、さて、どんなどろぼうをしてくるのかと思いきや、自分のうちから取ってきたとか、ありのたまごをどろぼうしてきたとか・・・とんでもないどろぼうばかりで、くまさか先生はかんかん！でも、すぐににっこりしてこう言うのです。「明日は隣村まで、みんなで遠足にいきます。」どろぼうが遠足？ぶっそうだけど、愛嬌があって、ちょっぴり怖いけど、かなり間抜け。こんなおかしなどろぼうがっこう、ありえないから面白い。予測がつかないから引きこまれてしまいます。1973年の発売以来、ずっと子どもたちを喜ばせ続けているこの絵本。かこさとしさんの代表的な作品の一つでもあります。



育児で大切なこと

『さまざまな人と触れ合う機会を』 5歳児



状況や周囲の人を見ながら自分で行動を考えられるようになる5歳児。周りの大人も過剰な手出し、口出しは控え、子ども自身が対処するのを見守る姿勢をもつようにしましょう。

友だちと遊ぶ時、意見が異なったり、友だちの提案が気に入らなかつたりと思いつりにならない

こともあります。それを大人がすぐに仲裁しては、自分で意見を伝えることができません。子ども同志で話し合い、譲り合う中で、主体性や協調性などが磨かれていくのです。

また最近では、核家族の増加や地域コミュニティの減少で、限られた人しか合わないという家庭も増えています。

大人主導で積極的に、異年齢の子どもや多世代の人と交わる機会を設けるといいでしょう。

多くの多彩な人と触れ合うことで「社会にはいろいろな人がいる」ということ、そして「場にふさわしい振る舞いをする」といったことを学んでいきます。